# 勞働問題大演說會

期日　大正十年三月一日午後六時開會
會場　神田美土代町青年會館

■勞働者——無產者——何物もない、我等の意志表示としての凡ての機關は、ブルジュアの獨專することである。筆も紙も奪はれた。そうして唯一最大の發表機關としての演說會すら尙ほ白金を投じなければならない。然し我等は正義の爲め、人類共存の爲め、飽くまでも運續的に絕叫しなければならない。そこで我等は我等同志に依つて一大演說會開催の計畫をした。

■過去の形式は一切破り、少しでも新らしい形式所謂勞働者の辯士を多く、然も入場料を徵收して決行するのである。

■無產者の集會の一例として無產者同志の據出にて開催する事が出來るといふ事を知ると同時に一つの團体的行動の現はれとして入場料を據出してもらいたい。

■辯士として勞働者が多く出席するの理由は、勞働運動は勞働者の自主的運動でなければならぬと、强く、主張するにあるからで將來必ず我等勞働者のみで出來得る時代が來る事を豫期し、切望して居るからである。

■諸君に切望す、これ等の理由に依る、この集會を諸君に依つて意義あらしめられよ。

一般無產者諸君——來り聞け、我等の打ち振ふ腕の物凄まじき唸りを、——喉は破れ、血は流れ、遂に倒れ又起ちて、絕叫せんとする、我等の聲を、——

## ◈プログラム

| | | |
|---|---|---|
| ◎開會の辭 | 司會者 | 高田和逸 |
| ◎勞働運動の方向 | 芝浦支部 | 高橋松五郎 |
| ◎自發的叫び | 日本機械技工組合 | 坂本三治 |
| ◎眞實 | 紡織勞働組合 | 稻葉平太 |
| ◎自主的勞働運動 | 正進會 | 諏訪與三郎 |
| ◎鬪爭より鬪爭へ | 信友會 | 岡澤卯三郎 |
| ◎我等は生きんと欲す | 電機及機械鉄工組合 | 小暮歌五郎 |
| ◎連續的突擊 | 正進會 | 稻生益太郎 |
| ◎破壞か建設か | 東京鐵工組合 | 山本懸藏 |
| ◎自由への道 | 信友會 | 野村好太郎 |
| ◎勞働運動の惡化 | 友愛會 | 松岡駒吉 |
| ◎新教育の徹底 | 啓明會 | 下中彌三郎 |
| ◎階級鬪爭の意義 | | 植田好太郎 |
| ◎夕張炭鑛大罷業より歸りて | 全日本鑛夫總聯合會 | 麻生久 |

（外辯士數名）

入場料（金貳拾錢）

主催　電機及機械鐵工組合芝浦支部